SC-IB News ’16.02

コミ＆事務局通信
23/FEB/2015

2015/12/28　常総市長に水害募金を届けてきました。

http://www.scout-ib.net/

「ひとりでも多くの青少年にスカウト活動を」顕彰バッジ「友情バッジ」の活用、再び！

これからの社会を担っていく人材を育成する使命をもつスカウト活動に、ひとりでも多くの青少年を迎え入れようという視点から、平成 11 年度から「ひとりでも多くの青少年にスカウト運動を」のスローガンのもと、ボーイスカウト日本連盟では組織拡充顕彰として「友情バッジ」を制定し、スカウトが友だちを誘ってをボーイスカウト活動に参加させる活動を推進してきました。

この「友情バッジ」は、この趣旨に則ってスカウト及び指導者が友人知人等をボーイスカウト活動に参加させた取り組みを称え、スカウトに顕彰バッジである「友情バッジ」を贈るというものです。

ボーイスカウト茨城県連盟では、当時この制度を取り入れて活用を計りましたが、現在では十分な活用がされていません。

そこで、今回、改めて各団・隊でこの友情バッジをスカウトを増やすツールとして使っていこうじやないか！という提案です。

●取り組み方

①まず、各隊ごとにこの「友情バッジ」を 1 セット購入してください。

②隊の集会で、機会あるごとに、隊長がこのバッジをスカウトに見せ、バッジを獲得することに意味を見いだせるように説明と動機付け、そして「カッコイイだろう！」とスカウトの心をくすぐってください。

③バッジを取得できたスカウトが出たときは、団を挙げて褒め称えて授与してください。できれば独立したセレモニーとして実施しましょう。

④最低でも 3 年間は継続しましょう。

●友情バッジの授与基準等

●顕彰バッジ授与対象者は

スカウトです。

（指導者は対象者ではありません）

●顕彰バッジの種類

銅色友情バッジ ‥‥

1 名以上のスカウトを入隊させた者

銀色友情バッジ ‥‥

3 名以上のスカウトを入隊させた者

金色友情バッジ ‥‥

5 名以上のスカウトを入隊させた者

※銀色及び金色友情バッジは、すでに授与済みバッジの対象人数を通算して当該バッジを授与することができます。

※例えば自分の兄弟や姉妹などが入隊した場合にも授与の対象なります。

●申請から授与までの流れ

1. 対象スカウトが出たときは、隊長が所定の申請書（別紙）に記入し、団委員長に申請します。
2. 団委員長は、申請書の基づいて承認した申請書の（写し）と、スカウト用品購入申込書を県連盟事務局に提出します。（必ず県連事務局にセットで提出ください）

金色（品番 -56188）
銀色（品番 -56172）
銅色（品番 -56166）
いずれも @184 税込です。

3. 日本連盟から顕彰バッジが届きます。
4. 団委員長と隊長が授与日を相談して決めます。できるだけ、団内の多くのスカウトが出席できる機会を活用します。スカウトだけでなく、保護者の出席も要請します。
5. 基本は団委員長から直接、対象スカウトに伝達します。

●顕彰バッジ（友情バッジ）の購入

顕彰バッジは、各団において購入します。

●バッジの着用

バッジは、制服または私服に着用することができます。着用部位については、着用部位は、制服の場合は左胸ポケットの上に年功章の内側に着用します。教育規程の 9-9-1、P.187 で確認ください。

●着用期間

スカウトである間は着用することができます。

標準団を目指すということ その７　「スカウトを惹きつける標準のスカウティングって？」

皆さんは、どのようなご縁で、このボーイスカウトの世界の扉をたたかれたのでしょうか？　すでにこれを読んでいるのですから、いずれにしても皆さんは「幸運」？ にも、すでにボーイスカウトの世界に足を踏み入れてシマッタ！わけです。え、「不幸にも・・」ですか？　まぁそれもいいじゃありませんか（笑）。幸か不幸かは、指導者としてどのようにスカウティングと関わっていったかによって変わっていきます。このボーイスカウトの世界は、ハス（蓮）田に首までつかって抜け出せなくなるか、無事に切り抜けて社会復帰するかのいずれかに分かれます。ほどほどっていうのがなかなか難しいようなのです。でも、突っ込んで関われば関わるほど楽しくなって抜け出せなくなっていく魔法のような魅力も持ち合わせいるのは確かです。

でもちょっと待ってください。皆さんの関わっているスカウティングってホンモノのスカウティングなのでしょうか？ こう書くと多くの方がビックリします。「え、ホンモノじゃないスカウティングなんてあるんですか？」って。

各団隊で行っているスカウティング、地区でやっているスカウティング、指導者研修で教えられたスカウティング・・・・いろいろあります。中には「スカウティングとは！」とまことしやかに語る人もこの世界にはたくさんいます。その各人は、同じようでも違ったことを言っています。これらはすべてスカウティングであることに違いはありません。すなわちこの運動にかかわっている人がやっている活動は全てがスカウティングなんです。このようにスカウティングそのものはそんなにせせこましいものではありません。となると、ホンモノだニセモノだって言うこと自体おかしいですよね。でも、そういわれると気になります「ホンモノのスカウティング」は、いったい何なのかなって！

そう、スカウティングは、創始者ベーデン-パウエル（B-P）の教育・・・いや育成理念に基づいた青少年のための運動です。「ホンモノのスカウティング」はこの B-P の下にあります。それは、団、地区、県連、日連などでやっているスカウティングではありません。これらは、この派生形いや発展形かなぁ？ なんです。

ちょっと難しいでしょうか…。

それじゃ、ちょっとイメージしてみましょう。東京ドームの様な大きな野球場全体がスカウティングだと思ってください。野球場全体が今のスカウティングであるとしたら、その原点はおそらくホームベースです。これが当初 B-P が描いていたスカウティングでしょう。それがこの 100 年であんなに大きくなりました。でも、外野の端っこにいたらホームベースはよく見えません。それでもそこでスカウティングというプレイができているわけです。それは、各国のスカウト組織が決められた指導者訓練をして、指導者を通して「スカウト運動の基本」を守っている、つまり共通理解の上でスカウティングが行われているからです。それはつまりホームベースの位置を示してくれています。

しかし、この運動に関わっている多くの人は、このホームベースがそこにあることは知っていても、このホームベースそのものについては詳しくは知らないのですね。この意味を知らないと野球はできません。スカウティングも同じです。B-P の考えを知らないとスカウティングはできないのではないでしょうか。

このスカウティングは、そもそもが、スカウティング・フォア・ボーイズという B-P が書いた本を読んだ子供たちが

「おぉ、こいつはおもしろい！」

と目を輝かせたところから始まりました。そこには、彼らの知らない世界が広がっていて、それがめっちゃくちゃ好奇心をくすぐり、しかもすぐにでも実行できそうな身近なヒントがたくさん書かれていたのです。それに触発されて彼らが自発的にスカウティングを始めても何の不思議もありません。実際、スカウティング・フォア・ボーイズの発売後すぐに英国のあちこちでスカウトの班が自発的に結成されたのですからね。

このように「スカウティング」は、オトナが作って始めたものではないのです。彼ら、子どもたちが仲間を集めて自ら始めたものです。子ども達が求めたものだから今も続いているのです。

そして班がいくつかできると、どうしても競い合って腕試しをしたくなります。そう、ゲームです。これがまた子供達には楽しいんですよね。本能的なものですからね。班同士で話し合ってそんな場をいちいち設けるのはたいへんですし、同じ条件で、そしていつでも競い合いたいですから、「隊」を作ろうという流れになります。しかし隊を作るためには、どうしてもオトナの「隊長」が必要となります。そこで彼らは、近所にいる「これは！」というオッちゃんに隊長になってもらったところから、オトナがスカウティングに関与するようになったわけです。いいですか？ **オトナはスカウトの求めによってこの運動に関わったのです**。ここが大切なんですよ。

それじゃぁ、近所のオッちゃんだったら、誰でもよかったのか・・・っていうと、そうではなかったハズです。彼らが望んでいたのは、彼らがやりたいことや班の在り方を理解してくれて、支援してくれることはもちろん、豊富で確かな人生や野外での経験によって、お話やヤーンの中で示唆と方向性を示してくれる人です。そして、何よりもそれをより楽しいアク

ティビティとして提案し、彼らの好奇心と夢と冒険心を満たしてくれる人でなければならなかったはずです。そんな眼鏡に適う人を求めたわけです。

そりゃそうですよね。もし、厳格で融通のきかないガチガチの人を隊長にしちゃったら、スカウティングは彼らが求めたものではない「つまらない」ものになってしまいますからね。B-P もその著書「隊長の手引き」でこう言っています。

「よく思うことだが、少年たちを魅きつけて、よい影響下におこうとしている人と、魚を釣ろうとしている釣り人は良く似ている。

もし、釣り人が自分の好きな食べ物を餌をとしてつけたなら、魚たくさん釣ることはできないだろう。だから、魚の好む餌をつけることである。

少年たちにも同じことが言える。もし、あなたが少年たちを向上させようと考えて説教をするなら、彼らの心を捉えることはできないだろう。

少年たちにとって魅力的で興味のあることをすることこそ、少年たちを惹きつける唯一の方法である。」

と。そうなんです。この組織において、成人に求められているのは、まず「スカウトを惹きつける」ことなんです。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

では、スカウトたちにとって魅力的で興味のあることって何なんでしょう。それをすることがスカウティングたちを惹きつける唯一の方法なのであれば、私たち指導者は、それを知るところから始めなければなりません。魅力的で興味のあることとは大きい括りで言えば、彼らの好奇心を刺激するモノ＆コトです。彼らの行動を促す最大のものは「必要性（ニーズ；needs)」ではないのです。ニーズでは彼らは動きません。その行動を誘発するものを「Wants（ウォンツ)」と言います。そう、彼らの行動を誘発するのはウォンツなんです。

「好奇心→ウォンツ」、これは人の心の動きです。心の中に芽生えた「おや？」をアクションの「どれどれ･なになに」へと推移させるステップですね。そして次にようやく「やってみたい」という『ニーズ』が出てきます。これは行動を起こすための理由を自分自身に納得させる段階なんです。「おや？」や「どれどれ･なになに」の段階では、まだ心の中では「行動をしたいんだけれども、それをやってもいいのかなぁ」という自制がはたらいています。それを「ボクはこんな理由があるからそれをしなけりゃならないんだ。やっちゃうもんね！」「だって、やりたいんだもん！」と必要性を打ち出して

「GB のつどい」の中での「班」Build Up プログラムの様子。

正当化するわけです。この必要性が「ニーズ」なんです。

このように、ニーズは好奇心とウォンツによって生み出されます。指導者はスカウトをうまくくすぐり好奇心を芽生えさせウォンツを発生させることによって、スカウティングが意図する方向にスカウトのニーズを出現させていくわけです。そうです。**誘導**＝マインドコントロールです（こう書くとアブナイ世界になっちゃいますが・笑)。スカウティングの活動はこれなんですよ。それはスカウトたちにとってすぐにやりたいこと、彼らを惹きつけるモノであることは間違いありません。言い換えれば、このように導くことができる指導者そのものが、スカウトにとって「魅力的で興味のある」存在になるわけなんですね。こんな隊長の周りにいるスカウトたちは、常にキラキラの瞳を輝かせて隊長の一挙一動を逃さず見ているでしょうし、いろいろな興味の「扉」を示してくれることを常に期待していることでしょう。

どうです？この「ニーズ」って、これまでウッドバッジ研修なんかで示されてきた「ニーズ」とは本質的に違っていると感じませんか？ウッドバッジ研修でのニーズでは、「どうしてそれをしたいのか」という根本部分を全く無視して、単に「スカウトがやりたいこと」がニーズであるとされてきました。さらに、指導者がスカウトのニーズをとりまとめてそれを年間プログラムという名の下に毎月に割り振って、月々の活動をプログラム化して、毎月のテーマやら進歩課目やらを組み込んでいくなんてことを､さも当たり前のようにやってきたんです。これってスカウトの班を自発的に結成した頃のスカウトからみたらものすごい暴挙ですよ。自分達のやりたいスカウティングの方向とは違ったモノになっちゃうワケです。スカウティングの起こりから見てみると、私たちオトナはスカウトを支援することはあっても、活動を管理したり支配したりしてはいけません。そうでないと本当の意味での「班」の自治はあり得なくなるからです。

この本当のスカウティング(にごく近いもの)を目の当たりに見たのは、1996 年に県連の海外派遣でオーストラリアにスカウト達を連れていって、地元のスカウトの隊と交流したときでした。その交流会ではゲームをやって、その後の進級式に同席したんですが、それら全てスカウトが企画し、運営しているのです。もちろん背後では指導者との打ち合わせや指導はあったでしょうが、前面に出ているのは全てスカウトでした。何の気負いもなく、ただあたりまえのようにそれを行っていました。中でも、リーダーシップを取っているスカウティングは自信と誇りに溢れていました。指導者は何をしていたかというと、ゲームで汚れた床を拭いたり、隅のほうでニコニコと見ていたりと、日本の目というか意識からすると「おいおい、それでいいのかよ！？」と心配になるくらいでした。そのとき「あっ！」と脳天をぶち抜かれたのです。「スカウトが主役ってまさにことなんだ！」と改めて知らされた瞬間でした。この何気ないけれども衝撃的な場面は、日本の、しかも茨城のスカウティングしか知らない私達にとっては大いなるカルチャーショックだったわけです。

昨年の６月号で『「全てのスカウトには、標準団における標準のスカウティングが提供される」ということなのです』と書きました。「スカウトが主役」これはまさしく標準のスカウティングの基本中の基本なんですよね。・・・そんなこと今更言われなくても分かっているよと言っている指導者の皆さんも、その本質を更に追求していただきたいと思います。

◆「外国語バッジ」の申請が簡略化

平成 28 年 1 月 1 日より、外国語会話バッジの申請手続きが簡略化されました。これ以降は、スカウト、指導者（団に登録がある者）の手続きは団内のみとなります。

●外国語会話バッジの概要

本バッジは、自己が持つ外国語会話能力を使っての貢献の姿勢を示すために着用します。

進歩制度や検定などの資格の有無に関わらず着用でき、進級章、進歩章、技能章としての扱い、又は連動する扱いはしません。また、行事・研修・派遣等参加資格の条件としての扱いはしません。

対象言語は世界スカウト機構の公用語である英語とフランス語、および各種スカウト行事において使用されることが多いスペイン語、中国語（普通話）、韓国語とします。

対象は、くまの課程の CS、BS、VS、RS 及び同年代の指導者、成人加盟員です。一度認定を受けた者は自身で返納しない限りそのバッジを継続して着用することが出来ます。

●申請方法と交付申請について

（1）外国語会話バッジの着用を希望する方は教育規程に記載される項目の認定を受けてください。

教育規程 1-9-1 国際活動（3）認定

ア 申請する言語を使用して５分間程会話する。会話相手は自分で選ぶことが出来る。

イ ２分間程度の日本語の文章（手紙、物語など 400 文字程度）を申請する言語に通訳する。

認定者は、上記項目を確認できる者とし、加盟登録の有無は問われない。

※認定基準は現段階では特に設けていません。従いまして、通訳章技能章考査員による認定も可能です。認定者は対象となる外国語における流暢さ、積極的な態度、この言語を使用してどのような活躍を希望するかなどを確認してください。（文法の正確さや単語力は重視しないでも結構です）。認定者は、推薦状に必要事項を記入し、申請者に渡してください。（申請書は県連 HP にあり）

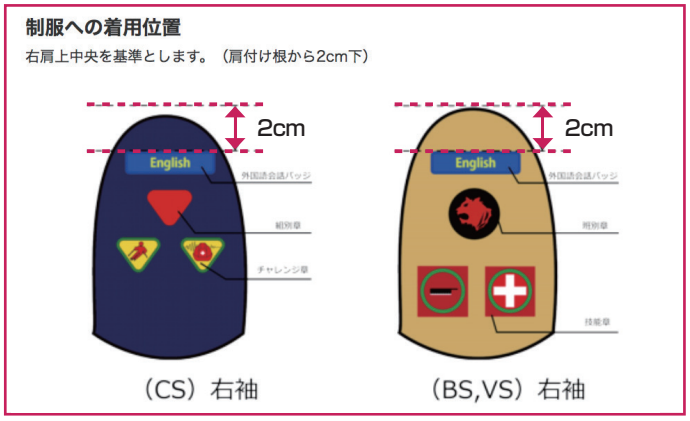
（2）認定を受けた後、下記教育規程に記載される手順に従って申請を行います。

教育規程 1-9-1 国際活動（4）交付申請

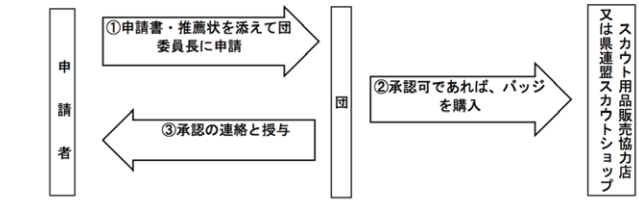
認定を受けたスカウトおよび隊指導者は、所属する隊の隊長を通じて団委員長に申請する。団指導者は、団委員長に申請する。授与は所属団においてこれを行う。

※認定者→（推薦状）→本人→（申請書＋推薦状）→隊長→→団

（3）バッジは、団の代表者が県連盟事務局を通して購入し、団や隊の集会で授与してください。



申請からバッジ着用までの流れ



◆ 第 12 回日本アグーナリー　申込み迫る !!

日本アグーナリーは、４年に１回、障がいのあるスカウト（特別な配慮を必要とするスカウト）が相集い、海外を含めた多くのスカウトたちとのキャンプ生活を通じて、スカウト仲間としての心の触れ合いと共通体験の中から、明るい希望を持って積極的に社会生活に参加することを目的に開催されます。今回で 12 回目を迎えます。

●実施期間：平成 28 年８月 12 日（金）～ 16 日（火）

●実施場所：静岡県・県立富士山麓山の村（静岡県富士宮市）

●テーマ：　「We can ！　富士からともにはばたこう」

◆ 参加申し込み要領

参加申込は、予定申込と確定申込の２回に分けて実施します。予定申込後の参加者の変更は可能です。また参加定員に達していない場合に限り確定申込からの新規申込も可能です。確定申込をもって正式の参加申込といたしますので、今後の情報にご留意ください。

●予定申込期日：団から県連盟への申込 **平成 28 年２月 29 日**

●確定申込期日：団から県連盟への申込 平成 28 年５月 15 日

●申込区分：参加者は、「参加隊」か「本部スタッフ」のいずれかの区分でお申し込みください。

●参加費：30,000 円

（予定申込時 5,000 円、確定申込時に残金 25,000 円）

●詳しくは日本連盟ホームページをごらんください。

●「本部スタッフ」として申し込む場合、ジャンボリー同様にコミッショナーが面接を行い、参加の可否を判断いたします。

指導者研修の日

毎月、第１土曜日、第１日曜日は、指導者研修の日です

茨城県連盟指導者養成委員会では、毎月第１土曜日と第１日曜日を「指導者研修の日」と定め、指導者研修をできるだけ集中して行っています。

この日は隊集会などはスケジュールに組み込まず、指導者がスカウトのために自らの力を高める日として、年間計画に入れてください。団や地区の研修もこの「指導者研修の日」に行いましょう。

●第１土曜日と第１日曜日に実施される研修（H28 予定）

4/3　キャンプ講習会（旧・野営法講習会）
6/1　団委員長セミナー
7/3　指導者のつどい・夏（部門別）
11/6　指導者のつどい・秋（部門別）
12/4　安全・危機管理講習会
2/5　指導者のつどい・冬（全体会）
3/5　ボーイスカウト講習会

●上記以外の第１土曜日と第１日曜日に実施される研修

- 各団、各隊や地区に行われる研修
- 新設の「指導者研修デリバリーシステム」（下記参照）で提供される指導者研修
- 自己研修や下見など

◆ 指導者研修デリバリーシステム、始動！！

平成 28 年度から、県連で実施している指導者研修の方法を一部変更して、従来の県連が期日と場所を定めた**「集合型研修」**に加えて、県連が定めた研修内容をパッケージ（講師＋資料）にして、団や隊等が希望する月日・場所に講師が出向いて研修を行う**「デリバリー研修」**をスタートさせます。

このデリバリー研修の意図は、「指導者が求める時に必要な研修を提供する」の具現化にあります。各隊のスカウトが喜ぶ魅力ある活動を実現するために指導者に研修を提供する、県連トレーニングチームが自ら開発した、茨城県独自の「指導者研修デリバリーシステム」です。

ごく簡単に説明すると、まずは宅配ピザをイメージしてください。それで概要が掴めるでしょう（右図参照）

①お客さん（研修を希望する人）は、ピザ屋さんのメニューを見て、食べたいピザ（必要な研修）を決めます。ピザ（研修）は、それぞれのお客さんに合わせて、ある程度のトッピング（カスタマイズ）がオプションで可能です。

②お客さんは、お店（地区指導者養成委員会）にピザの種類と配達日等を指定（要調整）して、注文が完了します。

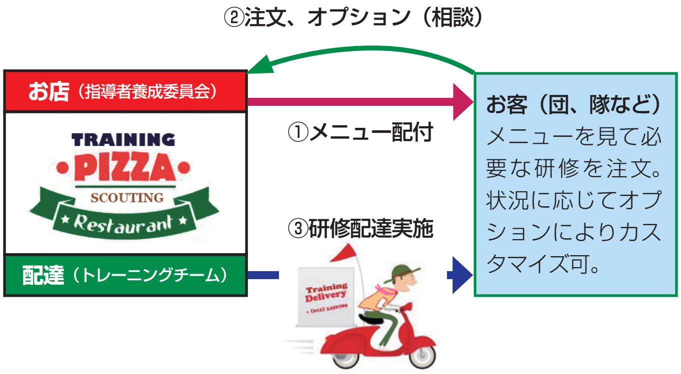
③指定日にピザが配達センター（県連トレーニングチーム）から配達（研修メニューと講師と資料等）されます。代金引換です。また、ピザを食べる環境（研修のための場所、用具・用品・資材等）は、お客さん側で用意します。

とまあ、こんな感じです。

メニューは２つ用意します。一覧メニュー（研修紹介メニュー）と詳細メニュー（シラバス）です。この２つのメニューをよく検討して発注します。研修に必要な費用は、発注者が用意する会場費や資材費等と研修パッケージの費用です。パッケージには、講師交通費や保健費用、講師昼食費などが含まれます（詳細はシラバスに記載されます）。

また、このデリバリー研修の主催は、団・隊、地区の他、例えば近隣の団の CS 隊長等の任意のグループ等でも可能です。ただし、あくまでも県連指導者養成事業として研修を実施（講師を派遣）しますので、主催者代表は、研修の実施報告（所定の研修報告、参加者名簿、会計報告、アンケート等）を県連事務局に提出することが必要となります。

平成 28 年度は、スカウトスキル（技能）中心の提供となります。毎年研修パッケージの種類を増やしていきます。



●研修紹介メニュー（上）とシラバス（下）　いずれも例

県定型　ボーイスカウトのキャンプを知ろう！！　**キャンプ講習会**

指導者必修研修｜日帰り・７時間｜講 義 ＋ 実 習｜指導者＋保護者対象｜ローバースカウト参加 OK
野外での研修｜悪天予報時中止｜５名以上で開催｜野 外 で 自 炊｜参加資格認定あり

ボーイスカウトの主たる活動フィールドは「野外」です。この「キャンプ講習会」は、初任指導者として、ボーイスカウトの基本である「野外活動」について理解を深めると共に、スカウティングのキャンプのごく基本を体験することで、指導者として最低限知っておきたいキャンプの基本的技能と、ボーイスカウトにおけるキャンプ（野営）の位置づけを理解します。

WB 研修所に参加する場合は、この講習会を修了することが必要となります。

実施対象	就任時　初心者　初級者
必要体力２	
コード No.	CPBS0001
開設経費	¥2,000 ／人（交通費別）

●必要な野営装備は、主催者側でご用意ください。（４～６人で班を作りますので、班の数だけ用意ください。）

シラバス

研修名称	キャンプ講習会		
テーマ	ボーイスカウトのキャンプを知ろう！！		
体系区分	県定型訓練	コード	CP-B-S-0001 Camp-Basic-Seminor
対象部門	全部門	対象任務	全指導者、団委員、保護者
受講対象	就任時、初心者、初級者	スカウト等参加	DL、補助者、RS 可
一般の参加	一般（20 歳以上）可	参加注意	子ども同伴不可
必要体力	2	講義実習比	講義：5、実習：5
研修期間	１日型　9:00-16:30 7h	宿泊形態	ーー
対応人数	５名以上 20 名未満	研修単位	５名（４～６）で１G
講師数	２名。　１G 増える毎に講師＋１名　（20 名では５名）		
実施場所	依頼者と調整（屋外）	雨天対応	雨天予報時中止
講師食事	昼食持参	参加者食事	セッションで自炊
テキスト	指導者のためのスカウトキャンプ、ロープむすび		
資　料	研修ノートは、講師が持参（or 事務局から申込者に郵送）。ハンドアウトは必要に応じて講師が持参して配付。		
依頼者準備品	各班に、指導者テント１、ドームテント１、炊具一式、カセットコンロ２、タープ１、テーブル１、炊具洗いスポンジ、洗剤、工具１、麻紐１巻き（20m 以上）、竹（直径 4cm 程度 50cm）２本／人、食器（器２、皿２、箸１）、名札、＊ホワイトボード（＆マーカー黒赤青）（＊は要相談）		
受講者携行品	筆記用具、クリップボード、雨具（100 円カッパ不可）、水筒、マグカップ、カッター or ナイフ、作業手袋、折りたたみ椅子、米１合、スカウトロープ、虫除け薬、虫刺され薬、上記テキスト。		
講師者準備	セッション用品（班または参加者個人が使用するものを除く）、各種資料、研修ノート		
参加者服装	活動しやすい服装と運動靴、キャップ。加盟員はネッカチーフ着用。		

費　用	１人あたり ¥2,000（５人、講師２名） 内訳　講師交通費（@800x5）、講師昼食（@400x5）、資料（@300x5）、昼食材料費（@400x5）、研修雑費（@100x5） 注意　講師交通費は ¥4,000、昼食費は ¥1,000 です。参加者数によっては、参加費収入だけでは、赤字になる場合があります。その場合は、不足分は依頼者の負担となります。黒字になった場合の、余剰金は依頼者において公正に会計処理をしてください。（参加者への返金、団会計等への繰り入れ等）
セッション構成＆タイムスケジュール	（下表）
担当ＴＴ	菊池、秋葉、河合、鈴木、若林、生田目、杉浦、村田、宮田、中島
開催の条件等	①１班あたり、指導者テント＋ドームテント＋タープを張ります。そのスペースが確保できるコト。また、当日構成した班数分そのスペースが確保できること。 ②依頼者準備品が揃えられること。県連に借用を依頼する場合は、申込時に依頼書を提出すること。 ③その際の県連倉庫からの搬出・搬入は依頼者が行うこと。
研修申し込み条件	①依頼者は、団・隊（複数団・隊可）、地区、近隣の同じ部門の指導者などの任意グループ（代表者が加盟員であること）であって、責任を持って研修の開設、運営ができること。その担当者が明確なこと。 ②講師に支払う交通費、昼食費、研修実施のための消耗品費（レシートの提出が必要）は、研修終了時に支払い、精算します。また、研修費用に赤字が発生した場合、その分の補填ができること。 ③実施した研修については、参加者名簿と会計報告を、実施後速やかに県連宛に提出できること。

時　間	内　容（セッション）
9:15	受付
9:30	開会式、オリエンテーション、写真撮影
9:50	§1. 野営法講習会について
10:10	§2. スカウティングと野外活動・キャンプ
11:00	§3. キャンプに必要な個人用具と選び方
12:00	§4. ご飯を鍋で炊いてみよう
13:30	§5. ロープ結びを覚えよう
14:45	§6. テントやタープを建ててみよう
16:00	§7. まとめ
16:20	閉会式、修了証授与
16:30	解散

指導者の集い報告　「楽しく学ぼうリスクマネージメント」　2016.2.7 開催

SC-IB News 12-1 号でもお伝えしましたが、２月の第一日曜日（指導者研修の日）に「楽しく学ぼう！リスクマネージメント」を実施しました。

当日は良い天気に恵まれたため、受付を済ませるとすぐに歴史館に庭園に移動し、そこで 46 人が U 字形をつくり開会式を行いました。そのまま引き続いて、杉浦＆郡司副コミが BS お得意の「班対抗」による「安全○×双六ゲーム」エクササイズを行い、今回のちょっと重いテーマである「安全管理、危機管理」について、楽しいスカウティング・ゲーム形式で参加者の気持ちをポジティブ方向に意識づけてみました。

その後は、青少年会館に会場を移し、 宮田副コミにより「危険予知」エクササイズを、お昼のあと、海老原・若林副コミによる「リスクマネージメント」エクササイズと続きました。そして、「知っておいてもらいたいことコーナー」ということで、生田目地区コミによる「そなえよに共済」の解説と各副コミによる各部門のキャンプ･活動の「御法度」の紹介、そして、中島県コミから「安全管理・危機管理ハンドブック」の要点の説明を行いました。

このように文章で書くと、堅苦しいセミナーのように思われてしまいますが、「指導者の集い」はセミナーではありません。指導者の勉強の場には違いませんが、「すぐに隊活動で役立てられる」ような、言わば県連主催のラウンドテーブルのようなもので、「楽しく」をモットーに実施しています。（※ラウンドテーブルは、指導者の勉強会で、隊や班・組の運営や、指導者の知識・技能修得、そして指導者としての意識や姿勢の醸成の場であって、理事会や地区委員会の報告会じゃありません）

来年は、春夏秋冬の４回のつどいを予定しています。うち春夏秋は各部門別でスカウトの基本＆楽しいプログラム研究を、冬は全体会を予定しています。参加された指導者には、必ず何かしらのお土産（活動・プログラムのヒント）を持ち帰ってもらえるように PDS しています。

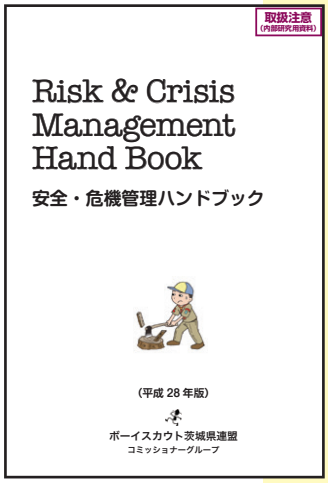
次回は、４月末～５月初旬の開催を予定しています。是非ご参加ください。

安全・危機管理ハンドブック頒布します

指導者の集いに参加された団には、１冊進呈しました「安全・危機管理ハンドブック」を印刷製本費用で頒布します。全 150 ページ（表紙含む）カラー印刷で、１冊 2,000 円（送料別）です。

このハンドブックは、右記の参加指導者の感想にもあるとおり、団や隊における安全管理、危機管理について、取り組むべき内容を具体的に示し、説明をしています。スカウト・保護者、預かる指導者、プログラム企画・計画時の注意、実施時の注意、万一の事故への備えと対処、団や隊として、また指導者として知っていなければならないこと、身につけていなければならないこと、団や隊として準備していなければならないこと、そして、訴訟から団や隊・指導者を守ること等々、多岐にわたる内容となっています。団における「安全管理・危機管理」の研修資料として、そして、団に備えておく１冊として是非ご用意ください。頒布申し込み及び支払い方法については、県連事務局に直接お願いします。

在庫は 2/22 現在でアト 16 冊です。



【参加指導者の感想】

指導者の集いに参加して

BVM Y.O.

今回のテーマは、「楽しく学ぼう！リスクマネージメント」ということで、文字通り、ゲームや演習を通して、楽しみながらリスクマネージメントについて勉強させていただきました。

原隊のビーバー隊では、ビーバースカウトは勿論のこと、そのご家族（父母、未就学の幼児、祖父母も含む）にも一緒に隊のプログラムに参加していただくなど他の隊には無い活動の特性があり、これまでの隊運営・隊集会実施については安全に対して緊張を強いられる場面が多々ありました。

このような背景のもとで参加させていただきましたが、そなえよつねに共済の解説も含めた演習の内容は非常に示唆に富んでいて、加えて、ワーキング・グループでは、講師の皆さん以外にも他団で活躍されている指導者の方々の実践的なお話も聞くことができ、全体を通して、とてもバランスのとれた有意義なトレーニングプログラムでした。

また､今回はじめて導入される｢安全･危機管理ハンドブック｣は、そのボリュームもさることながら、多岐にわたる情報が要領よくまとまっていて（マニュアルと呼ぶに相応しい）、隊集会のプログラムの作成段階から全般にわたり必携の資料集だと思います。特に、私を含め指導者経験の浅い方々にとって、隊活動を行う上で知っておかなければいけない情報が網羅されてるので、このような貴重な資料を作成していただき、とても助かります。

次回の「指導者のつどい」は、各部門毎の開催になるようですので、他の団の指導者の皆さんと深いレベルの情報共有を行えることを期待しています。

最後に、今回はオープニングのクイズゲーム形式のセッションがとても楽しかったです。早速、原隊のプログラムで使わせていただきたいと思います。

「指導者の集い」の運営スタッフの皆様、ありがとうございました。